

病害虫情報

令和8年度病害虫情報 第2号

令和8年9月7日付
奈良県病害虫防除所

県内のトマトにおけるトマトキバガによる被害の初確認

病害虫名：トマトキバガ *Tuta absoluta* (Meyrick)

作物名：トマト

1. 発生確認の経緯

- (1) 7月下旬に県東部中山間地域のトマト生産者2戸において、トマトキバガによるものと疑われる食害が確認され、食害部から幼虫を採集しました。
- (2) 採集した幼虫を飼育して羽化させ、成虫の交尾器の形態を確認した結果、トマトキバガと同定されました。
- (3) 本県では、令和6年2月に県北和地域に設置された性フェロモントラップに成虫が初誘殺され、県内初確認の特殊報を発表しました。その後も誘殺は続いていましたが、農作物での被害は確認されていませんでした。今回は、**農作物（トマト）における本種による被害の初確認**となります。

2. 国内の発生状況

- (1) 本種は、国内では令和3年10月に熊本県で初めて確認され、その後、全都道府県で性フェロモントラップへの成虫の誘殺が確認されています。
- (2) 令和8年8月現在、全国35道府県で農作物への被害が確認されています。被害は主にトマト及びミニトマトの葉や果実でみられ、ナスの葉への食害も報告されています。
- (3) 近隣府県では、三重県、京都府、兵庫県及び和歌山県において、トマト又はミニトマトで被害が確認されています。

3. 形態と生態

- (1) 成虫は体長5～7mmで、前翅は灰褐色地に黒色斑が散在します（写真1）。幼虫は終齢で体長8mm程度、体色は淡緑色～淡赤白色で、前胸の背面後方に細い黒色横帯があります（写真2）。
- (2) 本種は多化性で、卵期間は3～5日、幼虫期間は11～19日、蛹期間は6～10日程度で、25℃では1世代約27日とされています。

- (3) 成虫は夜行性で、幼虫は葉内に潜入して食害するほか、茎や果実にも食入します。本種の形態、生態及び被害の詳細は、令和5年度病害虫発生予察特殊報第2号「トマトキバガ」をご参照ください。

<https://www.pref.nara.lg.jp/documents/7551/20260113160606.pdf>

4. 被害症状と早期発見のポイント

- (1) 葉では、ハモグリバエ類が線状に食害するのに対し、トマトキバガは面的に食害します。また、トマトキバガでは虫糞が一か所にまとまってみられることがあります。(写真2, 3)。
- (2) 幼虫は果実に食入し、穿孔痕を生じます(写真4)。オオタバコガによる被害と類似しますが、トマトキバガでは食入部付近に少量の乾いた虫糞がみられるのに対し、オオタバコガでは食入した穴の付近に湿った多量の虫糞がみられる傾向があります。また、食入部から病原菌が侵入し、果実が腐敗することがあります。
- (3) 熊本県及び宮崎県の施設トマトでの調査では、性フェロモントラップへの誘殺数は栽培後半に増加する傾向があり、夏秋作型では8月中旬以降、冬春作型では5月以降に増加しています。
- (4) ほ場内をこまめに見回り、葉の食害痕、成長点付近の食入痕、果実の穿孔痕及び幼虫の有無を確認してください。疑わしい虫又は症状を見つけた場合は、速やかに最寄りの農林(農業)振興事務所又は奈良県病害虫防除所へ連絡してください。



写真1 トマトキバガ成虫



写真2 葉内の幼虫と虫糞



写真3 葉の食害痕



写真4 果実内部の穿孔痕

5. 防除及びまん延防止対策

- (1) ほ場をこまめに確認し、早期発見に努めてください。
- (2) 発生を確認した場合は、トマトキバガに登録のある農薬を使用し、発生初期から防除してください。本種では海外で複数の殺虫剤に対する抵抗性の発達が報告されています。同一の作用機構(IRACコード)の薬剤を連用せず、作用機構の異なる薬剤をローテーションで使用してください。
- (3) 農薬使用時は、ラベルをよく読んで、登録の有無と収穫前使用日数や使用回数を確認してください。
- (4) 被害葉、被害果および被害残さは、虫が分散しないようその場でビニール袋等に入れて密閉するなどした上で、土中に深く埋めるか、袋内の成幼虫等を完全に死滅させた後、適切に処分してください。
- (5) 収穫後のトマト残さ、野良生えのトマトおよびほ場内・施設周辺のナス科雑草等は発生源となる可能性がありますので、適切に除去してください。

(6) 本種が発生した圃場から苗、収穫物、残さ、コンテナ等の資材を移動する場合には、虫や被害葉・被害果等が付着・混入していないことを確認してください。

(7) 施設栽培では、出入口や側窓等の開口部に目合い 0.4mm 以下の防虫ネットを隙間なく設置し、成虫の侵入防止に努めてください。

表. トマトキバガに登録のある農薬一覧（令和8年8月31日現在）

IRAC コード	農薬名	希釈倍率 または使用量	使用方法	使用時期	使用 回数	登録作物	
						トマト	ミニトマト
13	スミチオン乳剤 ※	2,000倍	散布	収穫前日まで	2回以内	○	×
5	ディアナSC／ ラディアントSC	2500～5000倍	散布	収穫前日まで	2回以内	○	○
	ダブルシューターSE	1000倍	散布	収穫前日まで	2回以内	○	○
6	アフーム乳剤	2000倍	散布	収穫前日まで	5回以内	○	○
	アグリメック	500～1000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	○	×
	アニキ乳剤	1,000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	○	○
11A	BT剤 ※	1000倍、 または2000倍	散布	発生初期但し 収穫前日まで	－	○	○
13	コテツフロアブル	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	○	○
22A	トルネードエースDF／ ファイントリムDF	2000倍	散布	収穫前日まで	2回以内	○	×
22B	アクセルフロアブル	1000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	○	○
28	フェニックス顆粒水和剤	2000倍	散布	収穫前日まで	2回以内	○	○
	プレパソンフロアブル5	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	○	○
		100倍	灌注	期後半～定植	1回	○	○
	ヨーバルフロアブル	2500倍	散布	収穫前日まで	3回以内	○	○
	ベネピアOD	2000倍	散布	収穫前日まで	定植後 3回以内	○	○
	ベリマークSC	400株当たり25mL (希釈水量10～20L/400株)	灌注	育苗期後半 ～定植当日	合計	○	○
	ブリロッソ粒剤オメガ	2g/株	株元散布	育苗期後半 ～定植時	1回以内	○	○
30	グレーシア乳剤	2000倍	散布	収穫前日まで	2回以内	○	○
UN	ブレオフロアブル	1000倍	散布	収穫前日まで	2回以内	○	○

※ 製剤によって適用内容が異なり、トマト、ミニトマトやトマトキバガに登録のない製剤もあります。使用に当たっては、ラベルに書かれた登録内容及を必ず確認してください。

お問い合わせは

奈良県病害虫防除所 TEL. 0744-47-4481

その他関連情報は以下をご覧ください

病害虫防除所/奈良県公式ホームページ

<http://www.pref.nara.jp/1557.htm>